

青空高知での忘れられない研修生活

受入自治体 : 高知県高知市
氏 名 : 周 鋒
出身国 : 中華人民共和国
研修先 : 高知市役所



1 はじめに

時間の経つのは本当に速く、そろそろ 6 カ月間の日本での研修が終わろうとしています。私は以前から日本文化に大変興味があり、職場の研修で広島市に滞在した経験もあります。現在、中国・蕪湖市で日本との交流の連絡窓口として勤務していますが、自身の知識や実績を日本と中国の交流にさらに役立てたいと考え、この事業に応募しました。

2010 年 5 月 23 日、中国・安徽省の蕪湖市から協力交流研修員として来日し、日本の高知市に派遣されました。この機会により、日本地方政府一般行政の研修並びに日本語を勉強し、日本社会、文化、友好交流に関する知識を深めることができました。高知市と蕪湖市は 1985 年に友好提携して以来、経済、文化、スポーツ、観光など、交流が年々広がっています。

中国・蕪湖市は安徽省の東南部に位置し、市域の地勢は南が高く北は低くなっています。地形は平原や丘陵など多様で、市域内を流れる主な河川には西部に長江が通じる 73 km があります。昔から蕪湖市は「江南魚米の郷」と言われました。土地の面積は 3,317 平方 km、市区面積は 720 平方 km、人口は 230 万人。古い歴史と美しい景色に恵まれ、伝統工芸、綺麗な長江公園で名を馳せる観光地であります。

2 研修の概要

全体研修

①「東京研修」5 月 23 日—25 日

5 月 23 日に東京に到着して日本での研修生活が始まりました。各国からの研修員が東京に集まってオリエンテーションを受けました。研修先の高知市役所国際平和係の担当者との初面談や日本語レベルチェックが実施され、緊張しました。また、日本の国会議事堂、総務省、東京都府を見物しました。

②JIAM における日本語など研修 5 月 26 日—6 月 24 日

5 月 26 日、志賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所<JIAM>へ移動して、日本語、文化、歴史、茶道を勉強しました。また、京都の金閣寺、清水寺、二条城と彦根城など色々な日本の名所へ見学にいきました。昼間は日本語の授業に出て、夕方には研修員達と一緒に卓球をしました。毎日が忙しく楽しい日々でした。

専門研修

① 6月25日に高知に到着し、日本語と高知市の行政研修がはじまりました。6月28－8月20日高知市内にある日本語学校に通い、この間、高知の生活、文化、歴史を中心とした日本語の研修をしました。勉強しながら、生活するための安全や救急などの知識について勉強しました。とても楽しかったことを思い出します。毎日授業や宿題やテストを受けて学生時代に戻ったようでした。

高知は四国の南部に位置し、大平洋を臨む、美しい場所です。一番人気がある料理はかつおのタタキです。美しい自然に恵まれ、桂浜や五台山公園など観光地も多いです。高知市中心部には高知城があり、土佐藩主山内一豊が1603年築城しました。いまではたくさん観光客が訪れ、観光名所の一つになっています。坂本竜馬は高知出身の幕末の志士です。今、大河ドラマ「龍馬伝」が大人気で、桂浜には観光客がたくさん訪れています。もう一つの名所は、はりやま橋です。ある僧侶と町娘の禁断の愛にまつわる、有名な橋です。高知の台所はひろめ市場です。週末にはたくさんの人が集まって高知の名物をたべて楽しんでいます。

② 高知市と蕪湖市の交流について

今年、高知市と蕪湖市は友好関係の提携25周年目になります。10月から両市友好交流訪問を行い、事前準備と連絡を受けるなど協力しました。また10月11～17日間、私は高知市民訪問団と一緒に蕪湖市を訪問しました。この間、高知の皆さんに色々な蕪湖市の事を紹介しました。有名な長江公園と蕪湖料理を紹介して連れて食べて、皆が楽しかったです。また、第14回日中書道交流展開幕式に参加しました。そして、展示館を見物した、高知の書道家と蕪湖の書道家と一緒に書道を交流しました。皆さんと一緒に集まって楽しく話しながら、友情を深めました。初日の夜に祝賀会に参加し、そこで両市の市長があいさつをしました。両市の未来には経済、文化、スポーツ等交流がますます深まると思います。翌日は無錫洋馬農機と蘇州萬旭工場を見学しました。最後に上海萬博を観覧しました。



【市民講座】

中国・蕪湖市の料理と文化を紹介



【よさこい祭り】

高知市役所踊り子隊として参加

③たくさんの思い出

8月には全国から参加者が集まって踊る、第57回よさこい祭りが開かれました。私は高知市役所よさこい踊りチームに参加しました。2日間も踊り、本当に疲れました。帯屋町で踊っている時、お客さんがニコニコしている顔を見ることができて嬉しかったです。その時は、体の疲れも忘れていました。特に老人ホームでは、チームで一生懸命踊りました。ホームのお年寄達と一緒に踊って、皆さん嬉しがっていました。高知のよさこい祭りに感謝です。

秋になると、稲の成長ぶりもなかなか良く、作物のいろいろな色がとてもきれいでした。9月7日、職場の仲間たちと広い田んぼで子供さんと一緒に稲刈りに参加しました。先に鎌で稲を刈るので疲れました。後で刈取機を運転し稲を刈り取りました。機械で刈ると速いです。本当に良かったです。

3 感想

研修を通じて、日本はゴミの分類、資源の再利用やエネルギーの節約に力を入れているとわかりました。日本式分類収集について勉強する必要があります。皆は本当に一生懸命働いてまじめです。職場の上司や同僚はとても親切で礼儀正しくて、いつも私の質問に理解しやすいように丁寧に答えて下さいました。高知の景色と皆様の親切な人柄に大変良い印象を覚えました。

4 終わりに（帰国後の展望）

研修を終了するにあたって、今回の研修を通じて学んだことをいかし、高知で見たこと、聞いたこと、感じたことを持ち帰って、両市の昔から続く友好関係を守り続けていきます。これから私は両市の架け橋になるように全力を尽くしていこうと思います。

最後になりますが、日本での暮らしのあらゆる面で私を助けてくださった皆様、研修中のお世話をいただいた CLAIR の皆様、JIAM の先生、日本語学校の先生方、高知市の上司と同僚に対して感謝の意を表したいと思います。今度の研修は私にとって一生の宝でございます。ありがとうございました。また皆さんに再会できる日を楽しみにしています。

北九州市消防局での研修を終えて

受入自治体	福岡県北九州市
氏 名	姜 潤 淑
出 身 国	大韓民国
研 修 先	北九州市消防局



1 本事業に応募した動機

北九州市と仁川市は 1988 年に姉妹都市協定を締結し、様々な交流事業を行っています。その中で私が勤務している消防分野では、クレア研修、火災調査研修を通じ、毎年、北九州市に職員を受け入れてもらっています。特にクレア研修は長期間にわたって実施され、実務だけではなく日本の社会・文化を直接体験できる良い機会であるため若い消防職員にはとても人気の高い研修プログラムです。

消防職の採用試験での事ですが、面接官に「女性なのに強靱な体力を要する消防という職業で何ができると思いますか？」という質問を受けました。私は「市民の命と安全を守る消防士として普段から体を鍛える事は当然の事です。しかし体力を必要とする仕事だけが消防の仕事だとは思っていません。大学で学んだ国際通商を生かして、消防分野の国際交流を推進することはもちろん、先進消防技術を正しく習得し、応用して仁川市消防の発展に貢献したいです。」と答え、「必ずそのような消防士になってください。」と激励を受けました。

そこで今年度の自治体職員協力交流事業(LGOTP)の募集を見て、私が面接の際に約束した事が実現できるすばらしい機会だと思い、応募しました。

2 研修の概要

(1) 全体研修

ア 東京 - オリエンテーション

激しい雨が降っていた 5 月 23 日に日本(東京)へ来ました。24 日から 2 日間、総務省でオリエンテーションと日本語のレベルチェックなどを受けました。LGOTP の概要などについては十分に理解できましたが、敢えて東京で行う必要があったのか疑問でした。「受入自治体との面談」では初めて北九州市消防局の国際交流担当者に会う事ができ、東京都庁や国会議事堂の視察などもあり、短時間でしたが充実した時間を過ごしました。

イ 滋賀 - 日本語研修

5 月 26 日から 4 週間、滋賀県大津市にある JIAM という施設で日本語を中心に研修を受けました。大学卒業後、日本語を使う機会が少なかったため、ほとんど忘れてしまっていたのですが、再度、体系的に習う事ができました。授業や課題、発表会の準備では、少しの間だけ学生に戻ったような気分になれたことや、外出の際には門限を守るため必死に走って帰ったこともいい思い出になりました。

それだけではなく、スタディツアーや伝統茶道体験、工場見学などで日本の文化をより深く理解する事ができ、また世界各国から来た 30 人の研修生たちとの交流で、少しずつ世界観が広がりました。

(2) 専門研修

6月25日から11月19日までの5ヶ月間は北九州市消防局訓練研修センターに配置され、訓練研修センターと外部機関で行われる講演や訓練等を見学し、消防局の諸部署や2カ所の消防署において、消防行政全般に関する実務研修を受けました。また関東、関西、長崎市、熊本市での視察研修では、消防局や防災館などの消防関連機関を訪問し、地域ごとの消防業務の特徴を学び、各地域の文化財の消防設備などを見学しました。

ア 人事・訓練研修

まず、最も基本的な採用や昇任等の人事分野に両市の違いがありました。警防・救急・救助の各分野別に採用する仁川市消防とは違い、北九州市消防ではその区分なしに採用し、訓練研修後に業務を決めます。また、試験よりは審査(勤務評価)による昇任が多い仁川市消防に比べ、北九州市消防では一定の勤務年数を経ると、最も低い階級の消防士でも消防司令補への昇進試験を受ける機会を得られます。自分自身の努力次第で昇進が実現できる良い制度だと思います。

そして、「消防職員委員会」を設置し、勤務条件、福利厚生及び消防設備などに関する職員の意見を積極的に反映する等、業務を円滑に運営するために工夫していることや、各消防署において毎月1回、安全衛生委員会を開き、職場の安全並びに衛生に関する事項の調査・審議を行っていることも印象的でした。

訓練研修センターでは職員に対する基本研修、専門研修及び特別研修を体系的に実施しています。また職員の災害対応力の向上を図るため、火災防御実戦訓練、警防技術錬成会、救急・救助技術発表会等が実施され、常に訓練できる環境が整えられていることも、見習うべき事だと思いました。また JICA 研修、CLAIR 研修、火災調査研修など、海外の消防関係者を受け入れ、消防の技術を伝授するなど、多様な国際協力事業に力を入れている事も北九州市消防の素晴らしい点だと思います。

イ 予防・火災調査

北九州市消防では、マスコミやマスメディアの刊行物を利用した予防広報活動が活発に行われています。また 2006 年 6 月 1 日からは、住宅用の火災警報器の設置が義務化され、住宅火災での逃げ遅れによる被災者の最小化が目標とされています。高齢者や身体障害者を対象にした緊急通報システムの設置、小学生に消防業務を教える「消防士さんといっしょ」授業、地域住民のための「災害図上訓練 DIG (ディグ)」の実施、防災マスコットキャラクター「チェックル」の制作・活用などによる予防広報活動も精力的に行われています。

さらに「市民防災会」、「防災協会」、「自衛消防隊」など多くの自主防災組織があることと、彼らの「自分たちの街や職場は自分たちの手で守る」という高い防災意識にも驚きました。

北九州市消防の火災調査技術は、毎年仁川市の消防職員が研修を受けに来るほど先進的であり、先端的な調査資機材も十分に整備されています。仁川市では各消防署に「火災調査チーム」が設置されており、資格のある職員だけが火災原因調査を行っています。北九州市のように直接消火活動に携わった職員が火災調査を実施することも良い方法だと思います。

ウ 救急・救助

今回の研修の中で最も印象深かったのは「救急隊員」特に「救急救命士」に対する消防職員の認識です。仁川市消防の救急分野は、消防業務の中で最も出動が多く大変な仕事であるにも関わらず、手当などのインセンティブがないためみんな救急隊員になることを避けているのが現状です。北九州市消防では ELSTA という救急訓練の専門機関を設置し救急救命士を育成しており、資格（救急救命士）や活動件数による手当も支給されています。また、車両はすべて高規格救急車で、救急救命士だけが使用できる資機材を積載していることや、救急事故に消防隊が出動する「あかきゅう」システムを取り入れ、救急体制を強化していることから、救急救命士への志願者が多いのだと感じました。

また、救助分野に関しては、水難救助隊、特別高度化学救助隊など地域の状況に合わせた救助隊を設置し、救助隊員が常に災害現場を想定した訓練を行っている姿に感銘を受けました。



救急の日 行事(9月9日)、
防災マスコットキャラクターチェック



熊本市消防局訪問、
安全管理に関する講義



JICA 総合訓練展示、
JICA 研修生と一緒に

3 帰国後の展望

北九州市消防では、仁川市消防で実践できてない多くのことを実現しています。例えば、韓国では少し前から住宅火災による犠牲者の数を減らすことに力を入れています。アメリカや日本の「住宅用火災警報器」の普及と効果に関する研究も活発に行われており、これに対するマスコミの注目度も高まっているため、今後住宅用火災警報器設置が義務化されると思います。そこで、北九州市消防で学んだ普及広報活動や促進キャンペーンなどを活かして、警報器の普及に努めたいと考えています。

そして、隊員たちの日常化された訓練、体に染み付いた高い安全管理意識、実際の活動件数による手当支給、「あかきゅう」システム、火災因調査技術、市民と行う各種予防広報活動など、積極的に導入したい制度が沢山あります。

また、国際交流については現在のところ、消防分野での北九州市職員の受入は行っていないことから、これからは相互交流の形に発展させ、超高層ビル防災対策、市の重要施設の 3D 図面管理、指紋認識システムによる勤務時間管理、急速な環境の変化に対応するため毎年行っている組織改編など、仁川市消防の優れた部分を紹介できるよう努めたいと考えています。

あっという間に 6 ヶ月が過ぎてしまいました。消防業務だけではなく日本の文化や日本人の温かい心など沢山の事を見て、学び、感じることができました。感謝の気持ちで一杯です。お世話になりました。本当に有難うございました。

International relation training course in Kitakyushu

Host institution: city of Kitakyushu

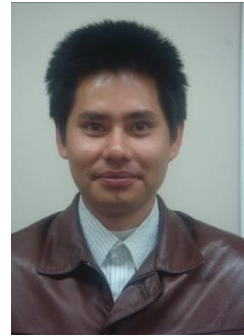
Name: Do Quang Minh

Country: Vietnam

Training Institution: Asian Affairs Division, City of Kitakyushu.

1. Introduction:

My name is Do Quang Minh, I work for the Department of Foreign Affair under Haiphong People Committee of Vietnam. The Department of Foreign Affair plays an important role on international exchange between Haiphong city and the government of Japan and other countries in the world, as well as private enterprises.



Haiphong, a port city is the third biggest city in Vietnam, located in the Northern of Vietnam. In which a number of Japanese industrial complexes are located.

Haiphong city and Kitakyushu city are two friendship cities; the Memorandum of Understanding was signed in April, 2009 by two cities' leader for 5 years and it will be re-evaluated in the fifth year to decide the form of future exchange activities based on the current situation. This is the second year, Haiphong People Committee decided to send the staff to Kitakyushu for training on international relation, environmental protection, trade promotion...and on behalf of a strong bridge between two cities.

This is my first time coming to Japan for studying and spending my experience and life in Kitakyushu.

2. General training:

2.1. TOKYO orientation and sightseeing (23rd May – 27th May, 2010):

Within 3 days staying in Tokyo, the welcome ceremony and orientation was held at the Japanese Ministry of Internal Affairs and Communications. We were touch about the Japanese political system and the status of various local governments and then visited some sightseeing.

Tokyo is very big, excited city and it was very wonderful to see all the city view from Tokyo tower. This wonderful scene will go with me for all my life.

2.2. Japanese Training at JIAM (27th May – 7th July):

I attended Japanese class for one and half month under enthusiastic and active guiding of the Japanese teachers from NGO Research Institute for Japanese Language Training. There, I was also introduced about the local authority system by officials from Ministry of Internal affairs and Communications; I also caught some understanding about the reality of Japanese Aging Society, Japanese traditional culture and history.

My Japanese training course was short time but it was a marvelous experiences with other friends beside a very nice the Lake Biwa.

2. 3. Specialized training (8th July – 30th October, 2010):

On 8th July, I left JIAM to Kitakyushu, a very famous city at rich experience on

environment and technology. Here in Kitakyushu, I was warmly welcomed by every one in Kitakyushu and began my training.

I was introduced about Kitakyushu city by reading newspaper, official staff and residents. And I was also been taken by helicopter to observe all the Kitakyushu view. This is my first time on helicopter, so I was very excited, the city of Kitakyushu in front of my eyes are very beautiful not only the high buildings but also vast natural areas, and Kanmon Strait was very nice when I visited there by ship.

My understanding of Kitakyushu city on international relation:

The city of Kitakyushu is an international city with approximately one million people and is located in the northern region of Kyushu Island by the Kanmon Strait. This city has 4 sister and friendship cities and has started new relationship with Haiphong city since 2009.

International Cooperation Activities

Kitakyushu is home to innumerable technologies and rich experience from its history in developing as an industrial and environmental city, and is carrying out substantive international cooperation activities through cooperation among the government, private sectors and universities.

JICA Kyushu International Center

The JICA Kyushu International Center was established as a comprehensive liaison office and international center to accept trainees for the Japan International Cooperation Agency in the Kyushu region. The center accepts over 700 trainees from developing countries per year and carries out diverse training courses, while promoting international cooperation in the local area with the cooperation of local residents.

Kitakyushu International Association

The Kitakyushu International Association (KIA) is promoting international exchange with residents and taking action to promote multi-cultural policies, focusing on providing support to foreigner residents, including the establishment of consultation services. Consultants that have overseas volunteer experience (JICA Coordinator for International Cooperation) have received requests for consultations on international cooperation by residents.

Local Businesses Promoting International Cooperation

The Wakamatsu Environment Research Institute, JPec Co., Ltd carries out research on design, construction and maintenance of thermal power stations, and the effective use of by-products, such as coal and ash (as construction materials, fertilizer, other), as well as conducting environmental analyses and environmental assessments. As one of its research topics, JPec studies composting technologies for organic waste management projects that are being carried out in the Southeast Asian region. A project implemented in Surabaya, Indonesia, in particular, has resulted in a major contribution to environmental protection of the city, including a reduction in the amount of waste,

improvements in environmental awareness of residents, and greening of the city through the application of composting technology for organic waste developed locally.

Beside of studying in Kitakyushu, I also supported strongly in arrangement for official delegation from / to Haiphong. During my training in Kitakyushu, a journalist visited to Haiphong to report the city, and musician in Kitakyushu had their performance in Haiphong city. On behalf of their success and further relationship between two cities, I acted as a liaison with Haiphong city.

I introduced about Haiphong city to Japanese and some other foreigner countries when Kitakyushu International Association organized photos exhibition in their festivals. Since then, Haiphong has known as rich potential city for sustainable development about industry and environment. I also learnt a lot about Kitakyushu city through translating brochures of Kitakyushu from English version to Vietnamese version.

In Kitakyushu city, I met about 35 Vietnamese students and 30 JICA participants from Vietnam studying in Kitakyushu. We exchanged information and we are sure that we will be bridges between Kitakyushu and Vietnam.

2.4. Impression of training:

- Each section and department where I undertook training held meetings at least once a week with the aim of enhancing communication skills, strengthening solidarity and reconfirming work goals. These meeting were highly affective.
- Public officials work really hard and their attitude towards to their work is very diligent and meticulous. Kitakyushu official are very kind and well-mannered.
- I felt that there was a strong awareness of the need to protect the environment and obey the traffic rules.
- I was deeply impressed by the Japanese environment, kindness of Japanese people, conservation of natural resource, and recycling.

3. Conclusion:

The friendship between Haiphong city and Kitakyushu city began in 2009 but the relationship between two cities is getting better and getting succeeds at the beginning. My 5 months training on international relation and other relevant sections in Asia International Division was very useful and facilitated increasing my knowledge. After my training course as strong bridge between Haiphong city and Kitakyushu city, I will work with my best to increase the good relationship between two cities.



ベトナム語版市勢概要の完成
を市長に報告



下水道工事現場視察

北九州市での国際関係研修コースに参加して

受入自治体	北九州市
氏名	ドゥ・クアン・ミン (Do Quang Minh)
出身国	ベトナム
研修先	北九州市アジア交流課

1. 自己紹介

私の名前はドゥ・クアン・ミンです。私はベトナムのハイフォン市（Haiphong）人民委員会の外務局（Department of Foreign Affair）に勤務しています。外務局はハイフォン市と日本その他の諸国の政府や民間企業との国際交流に関する重要な役割を担っています。港湾都市であるハイフォンは、ベトナム第三の都市で、ベトナム北部に位置しています。ハイフォンには日本の工業団地も数多くあります。

ハイフォン市と北九州市は友好協力協定を結んでいて、2009年4月に両市の市長が5年間の友好関係を取り決めた覚書に署名しました。5年後には、現状に照らして今後の交流活動の形態を決定すべく再検討されることになっています。今年は友好協力協定の締結から2年目に当たり、ハイフォン市人民委員会は、国際関係、環境保護、貿易促進などに関する研修のため、そして、両都市間の強力な架け橋となるために、北九州に職員を派遣することを決定しました。北九州での勉強、体験、生活のために今回初めて日本を訪れることになりました。

2. 全体研修

2.1. 東京でのオリエンテーションと観光（2010年5月23日－5月27日）

東京に滞在した3日間に、日本の総務省での歓迎式典とオリエンテーションが開かれた。日本の政治制度とさまざまな地方自治体の状況について説明を受け、その後、観光名所を訪れた。

東京は活気あふれた大都市で、東京タワーから眺めた街の展望が素晴らしかった。あの景色は一生忘れられない。

2.2. JIAM での日本語研修（5月27日－7月7日）

私は、1ヶ月半、日本語クラスに参加し、NGOの日本語教育研究所の日本語教師の熱心で積極的な指導を受けた。そこでは、総務省の職員から地方自治体の仕組みも紹介された。また、日本の高齢化社会の現実や伝統文化と歴史についてもある程度理解することができた。

日本語研修コースの期間は短かったが、美しい琵琶湖のそばで他の仲間と共に過ごした素晴らしい体験だった。

2.3. 専門研修（7月8日－10月30日）

7月8日、私はJIAMを後にして、環境・技術に関して豊富な経験がある有名な都市、北九州に着いた。北九州市ですべての方々から暖かい歓迎を受け、研修がスタートした。

私は、新聞を読み、職員や住民から聞き、北九州市に関する情報を得た。また、ヘリコプターで北九州全体を上空から眺める機会をつくっていただいた。ヘリコプターに乗るのは初めてでとても興奮した。目の前に広がる北九州の街はとても美しく、高いビルだけでなく、広大な自然が広がっていた。船で訪ねた関門海峡も素晴らしかった。

北九州市の国際関係に関する私の理解

北九州市は約 **100 万** の人口をもつ国際都市で、関門海峡に面した九州北部に位置している。この都市には4つの姉妹都市、友好都市があり、ハイフォン市とは **2009 年** に初めて関係を結んだ。

国際協力活動

北九州市は数多くの技術を生み出した本拠地であり、工業都市、環境都市として発展してきた歴史と豊かな経験がある。また、市当局、民間部門、および大学との間の協力によって多くの国際協力活動が実施されている。

JICA 九州国際センター

JICA 九州国際センターは、国際協力機構（JICA）の研修生を九州地方に受け入れるための総合的な連絡事務所兼国際センターとして設立された。同センターは、年間 **700 名** 余の途上国の研修生を受け入れ、多様な訓練コースを実施するとともに、現地住民の協力を得て、地方における国際協力を推進している。

北九州国際交流協会

北九州国際交流協会（KIA）は、住民との国際交流を推進し、相談サービスの開設を含め、外国人居住者へのサポートに焦点を当てた多文化重視の政策の推進に取り組んでいる。海外でのボランティア経験があるコンサルタント（JICA 国際協力コーディネーター）が、住民の国際協力に関する相談を依頼されている。

国際協力を推進している当地域のビジネス

株式会社ジェイペック（JPec）の若松環境研究所が、火力発電所の設計・建設・メンテナンス、および石炭や灰などの副産物の効果的な利用（建設資材、肥料、その他として）に関する研究を行うとともに、環境分析、環境アセスメントを実施している。同研究所の研究テーマの一つとして、ジェイペックは、東南アジアで実施されている有機廃棄物管理プロジェクトのために堆肥化技術を研究している。特に、インドネシアのスラバヤで実施されているプロジェクトは、廃棄物量の減少、住民の環境意識の向上、現地で開発された有機廃棄物の堆肥化技術の応用による都市の緑化など、スラバヤ市の環境保護に大きく貢献した。

北九州での勉強の他に、私は、ハイフォン市からの公式代表団やハイフォン市を訪れる日本からの代表団のための手配をお手伝いした。北九州での研修期間中、新聞記者がハイフォン市について取材するためにハイフォン市を訪れたり、北九州の音楽家がハイフォン市で演奏したりする機会があった。彼らの成功と二都市間の関係の強化のために、私はハイフォン市との連絡窓口として行動した。

北九州国際交流協会がフェスティバルで写真展示会を開催した際、私は、日本やその他の

諸外国の人々にハイフォン市を紹介した。以来、ハイフォンは、産業や環境の持続的な発展の多大な可能性を秘めた都市として知られている。私はまた、北九州市のパンフレットを英語版からベトナム語版に翻訳したが、その過程で北九州市について多くを学んだ。北九州市で、私は約 35 人のベトナム人学生と、ベトナムから来日し、この市で学んでいる 30 人の JICA 研修生と会った。情報を交換し合った私たちは、北九州とベトナムとの架け橋になると確信している。

2.4. 研修の感想

- 私が研修を受けた各セクションや部門は、コミュニケーション能力の向上、結束力の強化、作業目標の再確認のために、最低、1 週間に 1 回ミーティングを開いていた。こうしたミーティングはとても有効である。
- 公務員が非常に一生懸命働いていて、仕事に対する彼らの姿勢はとても熱心で、細かな所まで行き届いている。北九州市の職員は大変親切で、礼儀正しい。
- 環境保護の必要性に対する認識が高く、交通ルールをよく守っていると感じた。
- 日本の環境、日本人の親切さ、自然資源の保護、リサイクルの実施に非常に感銘を受けた。

3. 結論

ハイフォン市と北九州市の友好関係は 2009 年に始まった。両市の関係は当初から好ましかったが、ますます良くなっている。アジア交流課における国際交流やその他の関連事項に関する私の 5 ヶ月間の研修は、非常に有益で、私の知識の向上に大きく役立った。ハイフォン市と北九州市との間の強力な架け橋になるためのこの研修コースの後、私は、両市の良好な関係の強化のために最善を尽くしたい。

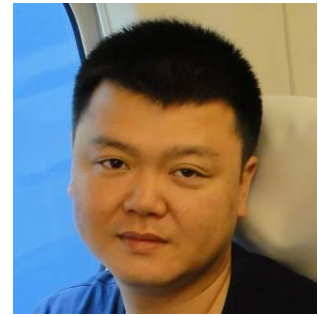
日 本 で の 研 修

受入自治体：福岡県北九州市

氏 名：史 磊

出 身 国：中華人民共和国

研 修 先：北九州市環境局アジア低炭素化センター



一、はじめに

私は北九州市の友好都市大連市からの自治体研修生として、今年5月23日に中国の首都北京から日本に来ました。中国で、私の職場は大連市環境保護局科技産業と国際交流処です。今大連市は日本に企画していただいてエコタウンを建設しています、だから、今回の研修の目的は日本環境モデル都市の北九州市の先進的な環境保全技術とエコタウン管理システムを学ぶことです。最初の



一ヶ月、滋賀県の全国市町村国際文化研修所（JIAM）で、日本語の研修を受けました。そして、この期間に、日本自治体制度、日本の風習礼儀などの講義及び付近の琵琶湖、京都の金閣寺、清水寺、奈良の東大寺、唐招提寺などの名所の見学を通して、日本の地方自治体制度と日本の文化と歴史を少し知ることができました。その後、6月26日に、私は新幹線に乗って北九州市に来ました。本当の研修生活が始まりました。

二、大連市の環境保全事業

大連市は中国遼東半島の南端に位置し、550万人がいる綺麗な港町です。大連には冬は酷寒がなく、夏も酷暑がない

ことから、住みやすい都市であると評価を得ています。大連は中国の重要な工業基地であり、工業総生産は中国東北地区の都市の中で第一位を占めております。他の都市よりも製造業基盤が整備されており、ハイテクや新産業をはじめとして、石油化工、設備製造、造船、電子情報とソフト産業という四つの産業拠点を柱とする新型工業体制ができています。

大連は人と自然の協調発展を重視しながら、工業生産を発展させ、生活を向上させ、エコ文化を創造してきました。山と海に面し、気候もほどよく、環境も美しく、生活も便利で、都市の緑化率は44.5%となっています。昨年中、大気の質が優良であった日数は360日に達しました。

大連は「国連居住環境ベストモデル賞」、「グローバル500」、「国際ガーデンシティ」、「国家環境保全モデル都市」など環境に関連した賞を相次いで受賞いたしました。青い空、美しい海、緑の大地はこもごも照り映えて、ビール祭り、

ファッション祭り、夏季ダボス会議、マラソン大会など、国際的なイベントで国内外から大勢の賓客を引き付けています。

大連市の環境状況は、ますます良くなりつつありますが、まだ問題がたくさんあります。都市開発が進んでいるため、大気汚染、水質汚染と廃棄物リサイクル問題が著しいです。建築物の解体によって発生する粉塵が大気を汚染しています。石炭をエネルギー源にしているため、特に石炭を多く使用する冬季にSOX（いおう酸化物）による大気汚染が著しいです。車の増加にしたがって、排気ガスが増え、NOX（窒素酸化物）による大気汚染が著しいです。急速な人口の増加にしたがって、下水処理場が不足し、河川や海を汚染しています。一般ゴミはまだ分別回収していないし、産業廃棄物のリサイクルと処分は日本のような発達国と大きな距離があります。だから、日本で勉強したいことがたくさんあります。

三、研修の概要

6月27日から北九州市環境局アジア低炭素化センターで研修を受け始めました。アジア低炭素化センターと言うのは、アジア地域の低炭素化を通じて、地域経済の活性化を図る中核センターです。センターは北九州市環境局、KITA環境協力センター、IGES 北九州アーバンセンターが1箇所に集まり、相互に連携しながら共同実施の方式で運営します。センターの主な機能は「技術移転の支援、専門人材の育成、調査研究・情報発信、モニターリングの実施」の4つがあります。私の研修の内容は主に実地見学、日常業務、受講の三つの部分があります。見学した場所は家電リサイクル工場、自動車リサイクル工場、OA機器リサイクル工場、TOTO、シャボン玉石鹼、日本鑄鍛鋼株式会社、環境



科学研究所、下水処理場など、たくさんあります。また、消防航空機に搭乗して、空中から環境視察したこともあるし、海事広報艇に乗船して北九州港と空港を視察したこともあります。中国のお客さんがくる時、付き添って何回もエコタウンを見学しました。実地見学を通じて、日本の先進的な技術と設備を見たし、日本式の管理体系と日本人の真面目な仕事態度を理解しました。講

座は、環境関係講座と日本語講座の二つ種類があります。JICAで他の研修員と一緒に環境関係の講座を受講しました。例えば、「循環型社会構築」、「北九州エコタウン事業」、「北九州市公害克服歴史」、「コンポストの作り方」、「北九州市廃棄物管理」、「北九州市水質基準とモニターリング計画」など30回以上受講しました。8月と9月の二ヶ月間、週3回の日本語授業を受けました、時間が短かったけど、役立ちました。日常業務は大体資料の翻訳、大連市政府部門と企業の連絡、中国からのお客さんに付き添うこと、大連に自分の技術と製品を移転したい企業と相談することなどです。臨時の仕事もあります。8月3日、セン

ターの皆さんと小倉高校の学生たちに大連市の環境の取組を日本語で紹介しました。10月、大連市の環境関係の企業さんを手伝って、北九州市の「エコテク・2010」と言う環境展示会に参加しました。

10月13日、大連環境局の梁副局长、国際交流処の黄处长、大連市環境産業協会李秘書長と一緒に北九州市主催の東アジア経済推進機構環境部会に出席しました。今回の部会から、各国政府に加え、産業界も参加しました。梁副局长は大連市の特色ある環境対策について、李秘書長は大連市環境界の低炭素化措置について発表しました。



10月の26日－29日、大連市環境局を代表して、「大連エコタウン訪日研修」に参加しました。大連市は現在、日本に企画していただいてエコタウンを建設しています。北九州市のエコタウンの管理制度・システム及び処理事業の内容に関する理解を深めることを目的に訪日研修を行いました。私と大連市エコタウンの企業代表達は「北九州市における廃棄物・資源循環政策の現状と展望」、「自動車リサイクル事業」、「エコタウンの物流システム」、「3R分野の事業化に係る動向と中国展開について」、「中国における家電リサイクル事業」について受講していただいたうえ、九州メタル産業、三菱マテリアル、北九州エコエナジー、西日本家電リサイクルなどの企業へ現場見学もしました。今回の研修を通じて、大連市エコタウンの発展方向と目的をよく理解できました。

四、終わり

時間の流れはとても速いです。私は北九州市で6ヶ月の研修生活を過ごしました。まもなく帰ることになります。予想した嬉しい気持ちだけではなく、帰りに近づくに従って、別れたくない悲しい気持ちも強くなっています。

日本に滞在した間、Clairの皆様、JIAMの皆様、北九州市市役所の皆様、アジア低炭素化センターの皆様には、色々お世話になりました。最後に、研修期間に支えてくださった方々に、心からお礼を申し上げます。皆様、どうもありがとうございました。日本で過ごした毎日はきっと私の美しい思い出になるはずです。

大連市に帰ると、北九州市と大連市の環境協力事業の窓口になれるかもしれません。私は必ず日本で勉強した知識を利用して、中日友好のために、北九州市と大連市のエコタウン協力事業うまく発展するために、頑張りたいと思っています。

日本の貿易振興を学んで
(Studying Japanese Trade Promotion)

受入自治体 (Host Institution)	福岡県 北九州市 (Fukuoka / City of Kitakyushu)
氏 名 (Name)	マナシヤン マリア Manasyan Maria
出 身 国 (Country)	ロシア連邦 Russian Federation
研 修 先 (Training Institution)	北九州市役所貿易振興課



1 本事業に応募した動機

Kitakyushu city and Chelyabinsk City started the cooperation 5 years ago. Our cities signed economic cooperation agreement. I wanted to study about Kitakyushu City from inside for better understanding about Japanese system in economy, policy, and environment. I want to be a bridge manager between our cities, countries that is why I applied.

2 研修の概要

I learnt about many important things. I learnt about working process from inside. I learnt about unique technologies. I learnt about how to organize business mission and how to work with delegation. I discovered that everything is different for me in the work process. I discovered the difference in documents. I was surprised when I saw the signing of the agreement in Japan. The form is totally different. I learnt that you should work hard if you want to receive good result. I learnt about environment and now I will start to divide garbage from my home and I will ask my family and friends to do the same. I learnt about Japanese system a lot. I mean economy, policy and environment. I visited many companies, factories and business seminars. I studied about industry and visited Eco Town many times. I think that I can be a guide in Eco Town.

I learn about organization process in City Administration. I want to write about video conference that was held by Chelyabinsk and Kitakyushu during the international



Meeting with Mr. Mayor

environment forum in November. Students from Chelyabinsk called to Kitakyushu University because Kitakyushu is the best example of environment success. Students from Chelyabinsk wanted to know about problems and solution in Kitakyushu. I am sure that this conference helped a lot, because Kitakyushu University did a lot for this conference. We were preparing in Kitakyushu for 2 weeks before this conference. I met with the participants of the conference and we checked the equipment for video connection. That was the first time for me to participate in such conference and I enjoyed a lot because people in Kitakyushu were very kind and polite. If we had problems we discussed and solved. I learnt about Welfare State too, because I have interest in Japanese life system so I asked a lot. I learnt a lot and now I am ready to discuss difference between Japan and Russia. I want to add, that my training program was in Trade Promotion Division but it didn't limit by studying Trade Promotion. I learnt a lot from the trade to life habits. I want to say that it was good; maybe I had some problems but we overcame it all together. I learnt that Kitakyushu is unique city with big experience in many aspects.



The participant from The University of Kitakyushu for video conference

3 帰国後の展望

I am the one person who stayed in Kitakyushu City for 6 months. I studied a lot and I am ready to share my knowledge with others. First of all, I am going to write a report about my training program. I am going to work and make all efforts for future cooperation between Kitakyushu and Chelyabinsk. Since now I will introduce Kitakyushu City in my country. I hope that my knowledge will be enough to answer at any question in my country. I am sure that we can develop cooperation between our cities and countries and I will work hard. This training program is useful because I worked here with Russia but not as I am Russian, I worked from the different country, so it helped me to notice all problems and mistake that we have in Russia. Now I know that it is not easy to cooperate with Russia and the best is that I know the reasons why. I am sure that now I can assist and help in our cooperation. I am going to prepare lectures about Kitakyushu and Eco Town for Russian students and businessmen. For me 6 months was not enough at all, because it passed so

quickly. I think that for these 6 months in Kitakyushu I saw and studied so much that I did not see and study for all my life. I will do all my best to introduce Kitakyushu in Russia. Russian people don't know a lot about Kitakyushu, they don't understand that Kitakyushu is unique city, because they do not have information, so my mission is to introduce Kitakyushu City and to tell about everything that I studied and discovered here.

日本の貿易振興を学んで

受入自治体	福岡県 北九州市
氏 名	マナシャン マリア
出 身 国	ロシア連邦
研 修 先	北九州市役所貿易振興課

1 本事業に応募した動機

北九州市とチェリャビンスク市（Chelyabinsk）は、5年前から経済交流を行っていましたが、今年6月に経済協力協定を結び、協力関係がスタートしました。私は、日本の経済、政策、環境に関するシステムをより深く理解するために、内側から北九州市について学びたいと考えました。両市の架け橋になりたいと思ったのがこの事業に応募したきっかけです。

2 研修の概要

私は多くの大切なことを学びました。仕事のプロセスを内側から学びました。ユニークなテクノロジーについて、そして、ビジネス使節団を組織する方法、使節団と一緒に行動する方法を学びました。作業プロセスがすべて異なること、そして書類の違いに気づきました。日本で契約書に署名するのを見たときには驚きました。（私の国とは）形式がまったく異なっています。良い結果を得たければ、一生懸命働くべきであることを学びました。環境について学びました。これからは自宅のゴミを分別します。家族や友だちにもそうするよう奨めます。日本の制度についても多くを学びました。経済、政策、環境についてです。多くの会社や工場を訪問し、ビジネスセミナーにも参加しました。産業について学び、エコタウンを何度も見学しました。今ではエコタウンのガイドを務められるでしょう。

私は、都市行政（City Administration）における組織プロセスを学びました。11月の国際環境フォーラム期間中にチェリャビンスク市と北九州市で開催されたビデオ会議について述べたいと思います。チェリャビンスクの学生が北九州市立大学の学生に呼びかけました。九州は環境政策に成功している最も良い例だからです。チェリャビンスクの学生は、北九州における問題と解決策について知りたかったのです。北九州市立大学はこの会議のために一生懸命に取り組んでいました。とても有意義な会議であったと確信しています。この会議のために、私たちは2週間、準備作業に追われました。私は、会議参加者に会い、ビデオ機器の接続をチェックしました。このような会議に参加するのは初めてでしたが、とても楽しむことができました。北九州の方々が親切で礼儀正しかったからです。問題が



市長訪問

あったときには、話し合って解決しました。「福祉国家」についても学びました。私は、日本人の暮らし方に関心があったため、いろいろな質問をしました。多くを学んだ今は、日本とロシアの違いを議論できるようになりました。私の研修プログラムは貿易振興課内で行われたものですが、貿易振興だけを学んだのではないことをお伝えしたいです。貿易から生活習慣に至る多くのことを学びました。それがとても良かったことです。問題もあったと思いますが、すべて解決してきました。北九州は、多くの点で貴重な経験をしている他にはみられない都市であることを学びました。



ビデオ会議に参加する北九州市立大学の学生たち

3 帰国後の展望

私は、(他の研修生と一緒にではなく)ただ一人、北九州市に6ヶ月間滞在しました。非常に多くのことを学び、その知識を他の人々に伝えることができます。最初に、研修プログラムに関する報告書を書くつもりです。また、北九州市とチェリャビンスク市の今後の協力関係のために活動し、あらゆる努力を払いたいと思います。これからは、私の国で北九州市を紹介していきます。私がここで得た知識をもとに、ロシアでの質問に答えたいと思っています。私は両市、両国の協力関係をさらに発展させることができると信じています。この研修プログラムはとても有益です。私はここで、ロシアという国と一緒に活動しましたが、ロシア人として活動したのではありません。日本とは違う国の人間として活動しました。それが、ロシア国内の問題や間違いにすべて気づくことに役立ちました。今、私はロシアと協力し合うのは簡単でないことが理解できます。そして、その理由がわかることが一番大切なことです。私は自分がそうした協力関係をお手伝いできると確信しています。私は、ロシアの学生とビジネスマンのために、北九州とエコタウンについてのレクチャーを準備するつもりです。6ヶ月という期間はあっという間に過ぎ去り、決して十分ではありませんでした。それでも、北九州市での6ヶ月の間に、これまでの人生にはなかったほど多くのことを見て、勉強しました。ロシアで北九州市を紹介するために最善を尽くします。ロシアの人々は北九州市についてあまり知りません。北九州市についての情報がないために、この市が他にはみられない素晴らしい都市であることを知らないのです。そのため、私の使命は、北九州市を紹介すること、そして、私がここで学び、発見したことすべてを伝えることです。

佐賀市での教育研修

受入自治体	佐賀県佐賀市
氏 名	楊 建新
出身地	中華人民共和国
研修先	佐賀市役所市民活動推進課国際交流室



1 はじめに

佐賀市の友好都市である中国江蘇省連雲港市役所から派遣されてきた私は、佐賀市役所市民活動推進課で教育研修員として八ヶ月間教育を研修させていただきました。

今回の来日は私にとってはじめてでした。来日する前に日本に関する知識は、殆ど本を通して得ました。この八ヶ月間の研修により、私の日本語能力の上達だけではなく、日本の文化や社会や歴史などの分野について自分の肌でいろいろ感じ、日本への理解を深め、新しいことを勉強し、視野を広げることができました。日本人の仕事に対する真面目さ、人に対する優しいフレンドリーな態度、伝統文化を一所懸命に守る気持ちなどを実感しました。日本の教育分野についてもいろいろ勉強になりました。

いよいよ終わりを迎えるこの八ヶ月間の佐賀研修生活は佐賀市市民活動推進課の皆さんのおかげで実り多く充実した時間でした。

2 研修概要

(1) 全体研修

【東京研修】(5月23日—5月25日)

5月23日に七カ国から集まってきた31名の研修員は雨の中で東京に到着しました。5月24日から25日までは総務省とCLAIRによってオリエンテーションが行われました。

日本の地方自治体の現状と今後の課題、日本での研修生活についての説明を受けました。その後、受入自治体の佐賀市市民活動推進課国際交流室からの研修担当者、喜多室長と面談しました。そして、JIAMでの日本語研修クラス分けのために研修員たちは日本語能力テストを受けました。それから、東京都庁や国会議事堂などを見学しました。東京での研修はハードで充実した3日間でした。

【JIAM(全国市町村国際文化研修所)研修】(5月27日—6月24日)

東京での三日間の研修が終わった後、研修員たちは新幹線に乗って滋賀県の琵琶湖畔にある全国市町村国際文化研修所へ移動しました。JIAMでの1ヶ月間の日本語研修を受け始めました。

この1ヶ月間の研修の中で、優しい先生について日本語と日本文化を勉強し、先生たちとCLAIRの職員さん達のおかげで日本語だけではなく、日本文化や社会などについていろいろ勉強になりました。また、各国からの研修員達と国際交流を行って、いい友達になりました。

授業のほか、週末を利用して友達と琵琶湖や比叡山などの観光名所へ行ったり、京都へ買い物をしに行ったりしました。CLAIR主催の見学旅行で彦根城や金閣寺や二条城へ見学に行って、日本のきれいな大自然と古い伝統文化に触れることができました。JIAMでの1ヶ月間研修は大変貴重で忘れられない思い出となりました。

(2) 専門研修(6月27日—2011年1月29日)

【佐賀市研修】

J I AMでの研修修了式が行われた後、私は迎えに来た受入自治体の担当者と一緒に飛行機に乗って佐賀へ着きました。

佐賀に着いてからの最初の二ヶ月間の主な研修活動は佐賀市の基本情報に基づき、展開しました。私の研修担当者に案内していただいて、佐賀市内の産業、歴史、環境、社会、市政に関する施設を見学しました。まずは佐賀市の污水处理工場や水道局や清掃工場などの市政施設を視察し、次に佐賀武士道精神の源・葉隠高伝寺や三重津日本海軍所や佐賀城本丸や大隈重信記念館などの佐賀歴史遺跡を見学しました。

この一連の見学を通して、私は佐賀市に対する認識が次第に深くなり、佐賀市での教育研修の背景をきちんと把握するのに役立ちました。

【佐賀市教育委員会研修】

佐賀市研修によって得た情報のもとで、それからは佐賀市教育委員会へ一ヶ月間の教育研修に行きました。教育委員会の各課で佐賀市教育の政策、制度、日常管理、教育委員会と学校との関係などいろいろ研修しました。

今、佐賀市では義務教育の基本方針が二つあります。一つは確かな学力とともに、社会の一員として心豊かにたくましく生きる力を育成します。もう一つは家庭、地域、企業等、学校等の協働体制を強化し、子供が育つ地域づくりを進めます。このような方針を貫くために、今、佐賀市役所の各課では「子供へのまなざし運動」を実施しています。子供を一人前の大人、親に育てる教育の場としての「家庭」、子供に地域の一員としての自覚を促す教育の場としての「地域」、子供の勤労観、職業観を育む教育の場としての「企業等」、子供の学ぶ喜びを育む教育の場としての「学校等」この「四つの教育の場」を確立して、相互に連携を図ることによって、社会全体が一体となり子供を育む佐賀の町作りをすすめています。この「子供へのまなざし運動」は私に深い印象を残しました。

このほかに、佐賀市教育委員会の組織構造、各課の担当分野や日常運営、職員の仕事ぶりなどについていい勉強になりました。佐賀市の教育現状について、より一層深く理解できました。

【佐賀市小中学校研修】

教育委員会での研修の後、佐賀市にある小学校3校と中学校3校への見学を始めました。

地方政府が教育分野に投じた資金は驚くほど多いです。教育の面に使われた税金は市役所の歳出で二番目の位置を占めています。日本は本当に教育を重んじる国です。どの学校へ行っても精良な教育施設に驚きました、同じ水準の室内外運動場、図書館、食堂などの設備がよく揃っています。生徒さんの住所によって学区を分けて市民に平等な教育サービスを提供しています。教育の公正性と学校の活性化を保つために、各学校では教師は市の公務員として定期的に人事異動を行います。生徒たちの学習内容も充実しています。



〈佐賀市内の中学校での交流の様子〉

生徒たちの自己学習力や逞しい体や思いやりがある心を育成するために、文化授業のほかにボランティア活動、部活、修学旅行などを実施します。

学校と教育委員会、地域のみなさん、保護者の間に緊密な関係を保って協働して教育のレベルを高めます。

佐賀市では生徒たちの幼稚園と小学校、小学校と中学校との接続がうまくいくために、校舎隣接型、幼小、小中一貫校を建設し、9年間を見通した義務教育を研究、実践しています。

【沖縄平和教育研修】

最後の県外研修は沖縄での平和教育研修です。まずは沖縄県立博物館へ見学に行きました。立派な博物館新館で毎年沖縄にまつわる特別展や企画展を開催すると同時に、文化講座や体験学習教室、展示解説会をはじめとするさまざまなイベントを行っています。このような活動への参加によって琉球の特色ある自然、歴史、文化などを入館者に発信する大きな役割を担っています。次は平和記念資料館での平和教育視察です。第二次世界大戦で最後の激戦地となった沖縄では約20万人あまりの人命を失いました。この悲惨な戦争を二度と繰り返さないようにという理念で平和教育を行っています。

日本各地からの学生たちはここでいろいろな展示物や資料や映像などを通して戦没者の追悼と平和祈念をし、戦争体験の教訓を継承します。

最後に沖縄にある世界遺産に登録される琉球王国時代の城を見学して、琉球とアジア諸国の関係を勉強しました。



〈沖縄県立博物館前にて〉

3 おわりに

時間の経つのは本当に早いものです、八ヶ月間の教育研修生活があっという間に終わろうとしています。この八ヶ月間を振り返ってみると、日本での研修は私にとって、非常に大切な経歴と貴重な人生経験になりました。研修を通して日本の教育や文化や社会などに対する認識が深まりました。帰国後、日本で習得した日本語や日本文化をこれからの中国での仕事に活かし、身につけた知識や経験を使って今後の中国と日本の友好交流、経済協力の架け橋としてささやかな力を捧げたいと思います。

最後になりましたが、今度の教育研修期間に、時間と力を惜しまず多大のご指導と熱心なご協力をいただきましたCLAIRのスタッフの皆さん、JIAMの先生方々、並びに私の研修生活を支えていただいた佐賀市市民活動推進課と佐賀市国際交流協会の皆様方、佐賀市教育委員会の皆様方に心から感謝の意を表したいと思います。皆さんの優しさと心の温かさはこれからもずっと忘れず、佐賀市と連雲港市との交流に全力を尽くして努めて生きたいです。

大変お世話になりました、ありがとうございます、皆さんとの再会を楽しみにしています。

人について愛を実践する芦北町での研修

受入自治体：熊本県芦北町

氏 名：李 智恵（イ ジヘエ）

出身国：大韓民国

研修先：芦北町役場



1. 本事業に応募した動機

公務員になる前、私は3年半間、旅行会社で日本語通訳ガイドとして働きました。日本からの観光客を案内しながら日本の文化に興味を持つようになり、またガイドの仕事を通じて覚えた日本語を生かしたいとも思いました。これをきっかけとして、今回、自治体職員協力交流研修事業に応募しました。

2. 研修の概要

1) 全体研修（2010. 05. 23～2010. 06. 24）

東京に5月23日に到着して3日間、協力交流研修員としてのオリエンテーションを受け、5月26日滋賀県の全国市町村国際文化研修所 J I A M に移動し、1ヶ月間日本語を研修しました。

日本語研修の成果発表会では、全て日本語でプレゼンテーションをしたことが印象に残っています。また、発表の準備のため、中国からの研修生と一緒に資料を作ることで母国との文化の違いを学びました。成果発表会のお陰でクラスの人と親しく話す機会ができ仲良くなり、研修期間中に親密な友人ができました。

日本語研修以外にも、日本の歴史や文化を見学するスタディツアー、茶道体験などを通して日本の歴史や文化を直接肌に触れることができました。

特に研修地で行われたおにぎりを握る体験は、その土地の人たちが企画して、外国人が日本の伝統文化を知ることですごく印象深かったです。

2) 専門研修（2009. 6. 25～2010. 2. 18）

熊本県芦北町での専門研修は、行政研修をはじめ現場実習、イベントへの参加など様々な研修を受けました。その中で印象に残っている研修について述べさせていただきます。

① 国際交流研修

芦北町は日本のどこよりも国際交流についての熱意を持って推進している町です。自治体職員協力交流事業で、10年間、韓国から行政研修として公務員を受け入れていること、カンボジアから熊本県海外技術研修員受入事業で学校の先生を受け入れ、12年間、教育分野の研修を実施しています。また、英国派遣事業、役場職員の青年海外協力隊への派遣など、国際交流に情熱を持って取り組んでいます。毎年、芦北町

国際交流まつり、外国人とのおしゃべり会などを開催し芦北に住んでいる外国人と住民の交流の場を作っています。町の国際交流活動の中でも、カンボジア学校建設募金活動は町民総参加の募金活動を行っています。現在、5校目の建設に向け募金活動をしています。特に、町の小学生が募金米やサラダ玉ねぎを作り、販売した益金を募金しています。国際交流を考え他国へ支援する活動は、子ども達が国際人



【火の国まつり】

としての心を育む良いきっかけとなると思いました。このような学校教育への投資は、国の未来の発展と成長に繋がる大切なことだと感じます。芦北町は、単なる学校作りではない、国の成長に役立つ人材を育成する意味としても最適な取り組みだと思いました。

私もカンボジア募金米の田植えや収穫、町のイベントに出向きポップコーンを販売しました。また、国際交流まつりの時、キムチや冷麺の韓国料理を販売した売上金を寄付することで僅かなら募金活動に貢献したと思います。

② まちづくり研修



【韓国語講座】

芦北町のまちづくりは役場より住民が自主的に活動していることが印象深かったです。住民が主役となって活動することで町への郷土愛を高め、一体感を感じられるいい機会になると思います。

廃校した古石小学校跡地を利用した古石交流館「みどりの里」の運営が印象的かったです。ここでは、地区の方々が一体となって地区内外の方々に様々な体験メニューを通して地域づくり活動を行っています。

また告地区の「棚田保存会」では、地区の人々が、10年以上稲作を通して地区外と交流している棚田オーナーを行っていることに感心しました。それぞれの地区の方が、情熱、郷土愛をもって取り組んでいる感じがしました。

町の特産品のミネラルウォーター“真っ清水”芦北町特製高級自酒“葦北”“夢あしきた”などの芦北町をPRする活動も良い事業だと思いました。漁業を観光スポットにした“観光うたせ船”、地域振興のため毎年夏に開催している“芦北伽哩（カレー）街道”なども新たな伝統を作っていくイベントとして良い企画だと思いました。

③ 社会福祉研修

高齢社会を迎えた日本の高齢者福祉制度が、韓国よりも進んでいることが芦北町の

福祉施設の研修を受けながら感じました。芦北町立老人ホームを見学し、地域包括センターでは社会福祉士が、地域の高齢者の自宅を訪問して相談することに同行したこともありました。また遊びを通じて高齢者の認知症予防、発見と治療を目的として活動している“あそび Re パーク”での研修は、本当に遊ぶ感じで行われていました。ただ実際は、遊ぶだけではなく、しっかりとした認知症の予防、発見を目的にプログラムが組み立てられたところに感心しました。高齢者の健康と介護予防を図る「たっしゃか会」、デイサービスなど先進の高齢者福祉施設を見ながらまだ高齢化について取り組むことが遅れている韓国にこのような施策の導入が必要ではないかと思いました。

障害者の施設としては、芦北町の障害者作業所“ひまわり芦北”、胎児性水俣病患者を対象とした“ほっとはうす”でも現場研修を受けました。韓国の障害者施設が障害者を保護する消極的な取り組みと比べて、ここでは障害者の障害程度によって最適な就労を支援していました。就労を念頭に置いた障害者施策は、障害者の自立と社会性を身につけるためのコミュニティの場になることに感動しました。

④ 現場研修

熊本県芦北地域振興局での研修は、芦北以外の水俣、津奈木を含めて広域的に行政研修ができました。「薩摩街道歴史ふれあいウォーク大会」「海老いろいろフェア」は、地域の歴史と特産品を生かした企画で、多くの方々にその町の良さを感じられるきっかけにもなっていると思います。

現場研修の中でも特に保育園の研修は、子ども達が元気いっぱいで大変でしたけど思い出に残る研修でした。また、水俣病の資料館に行って経済発展に伴う環境問題について考えるようになり、環境リサイクルの導入や考え方の話を聞き環境保護への熱意も感じました。

⑤ 韓国文化を通じた住民との交流

町の国際交流の一環で企画された韓国語講座では講師を務めました。8月から1月までの毎週水曜日の期間に、韓国語や韓国文化を紹介しました。特に韓国文化を紹介する講座では、韓国の衣食住と歴史、文化を通して、受講者の方々が韓国についてたくさん興味を持つようになって嬉しかったです。

国際交流まつりのグルメバザーでは韓国のキムチと冷麺を作って販売しました。韓国料理の調理、販売を手伝ってくれたボランティアの方々とも仲良くなりました。また、料理を通して韓国に興味を持つ機会として韓国料理教室も開催しました。教室では健康によく、栄養のバランスも良い韓国料理を



【韓国料理教室】

紹介し、多くの方に参加して頂き楽しく調理から会食ができ、両国の交流ができたこともよかったと思います。

3.おわりに

芦北町での行政研修は、私にとって大きいプレゼントでした。芦北町へ来て韓国とは違う公務員制度を体験しながら、帰国してこれからどのように働いて行くかを考えるきっかけとなりました。芦北町では、住民と公務員が力を合わせて自分の町を守っていくまちづくり活動、また、どの市町村よりも熱意を持って推進している芦北町の国際交流活動は、始興市でも提案してみたいです。

最後に様々な研修と体験ができるように御指導頂きました竹崎町長をはじめ芦北町役場の職員、特に企画財政課の皆様、やさしく歓迎して下さった住民の皆さん、目を輝かせて熱心に勉強くださった韓国語講座の受講生の方々にお礼を申し上げます。

芦北町から頂いた大きい愛と感謝の気持ちを忘れず、帰国してからも芦北町の心を伝えるように頑張ります。ありがとうございました。